

連載

天文学への道【6】

＜第6回 中田好一さん（東京大学木曾観測所）＞

富田晃彦（和歌山大学教育学部）

天文関係でお仕事をされている方々に、これまでの「道のり」や成功の「秘訣」をお話頂く連載企画「天文学への道」、第6回目は、東京大学天文学教育研究センター木曾観測所で所長をしておられる中田好一さんです。2004年3月に、富田が木曾観測所に共同利用で滞在していた時にお話を伺いました。ちょうど、その年の「銀河学校」の直前でした。

●もののはずみかなあ...

富田（以下、富）：今日はよろしくお願ひします。まず最初に現在のお仕事を簡単にご紹介下さい。

中田さん（以下、中）：研究について、ですよ。対象は赤色巨星です。赤色巨星の観測的な研究をしています。

富：現在は所長の激務もこなされているわけですが、天文を目指したきっかけや、現在のお仕事までの道のりを伺いたいと思います。

中：もののはずみかなあ。

富：もののはずみ、ですか？

中：鏑木修さんという人と同期です。鏑木さんは東北大を長く勤められて、最近山口大に移りました。彼と大学2年の時、山登りをしたのです。駒場にいた時で、その大学2年の秋に専門を決めないといけなかったのです。山で2人で焚火をしました。お前、どうする？という会話になりました。鏑木さんは、天文をやる、とはっきり希望を持っていました。彼は最初は太陽の研究、その後、相対性理論やブラックホール理論へ進みました。彼が天文に行くので、俺も、

という感じだったかな。それまで星の名前も知らなかったし。あまり主体性がないな、自分で言うのも何だけど。

富：友と山の焚火の時に天文への志望を決めたとは、もののはずみではなく、いいお話ではないですか。

●おじいさんにはショックだったようで...

富：天文志望を決められた後は、どのような感じだったのでしょうか。

中：私のおじいさんはスクラップ業を営んでいました。おじいさんは、私もいつかは鉄くずを扱う仕事をするのだろう、と何となく思っていたようです。しかし、大学院に入った頃から、変だな、と感じたようです（笑）。心配になったのか、好一はいつ経済を始めるのか？と尋ねてきたのです。

富：経済ですか？

中：大学で勉強していることはきっと経済学で、将来のスクラップ業に役に立てる、と思っていたんでしょうかね。天文をやっているということは、最初は知らなかったようです。おじやおばから、商売はしないんだよ、と説明してくれました。おじいさんは相当なショックだったらしいです。ただ、その後は特に何も言わなくなりました。

富：天文を仕事にと聞いて親がびっくりした、というのは、多くの人から聞きますが、中田さんのところでもそうでしたか...

中：助手は長くて、死ぬまでこのままか、とも思いましたよ。天文はよそに行けないからね。つぶしがきかないし。だからその後、苦労は多かったですよ。1991年頃まで本郷

にいて、その後、木曾に来ました。前原さん(富田注:木曾観測所から岡山観測所に移られ、後に岡山で所長)が炭素星のサーベイをちょうど終えられた頃かな。

富:1991年といえば、私が大学院に入った年です。前原さんとKUG(木曾紫外超過銀河)の共同研究が始まり、今も続いています。

●あまり人のことは考えたことがないしなあ...

富:木曾観測所では銀河学校が毎年盛大に開かれていますね。銀河学校は確か私が教育学部に赴任した年(1997年)から始まりましたね。赴任の時、教育学部に行くことでこれから教育の仕事が多くなって大変だな、と思っていたら、木曾ではもっと大きなイベントを始められたのです。天文屋ならどこにいてもこの種の仕事がついて回るな、とあきらめた年でもありました(笑)。

中:教えるということは、精神衛生上いいんだろうね。所員はいきいきと教育の事業をしていますよ。最近何でもお金の話でいやなんだけれど、教育というのは投資効果が高いものだと思うよ。一見金がかかるだけに見えるけど、そんなことはない。後からどんどん返ってくる。

富:SPP(サイエンス・パートナーシップ・プログラム)で、地域の小学校など、出張授業でものすごく回られていますね。事務室外の壁に、学校回りの予定表が貼ってあって、予定びっしりですね。いつもびっくりしますよ。教育学部でもこんなことはありませんよ。

中:教育だけでなく、とにかく何でもいいから地元にも返していきたい、と思っています。研究会を催すだけでもいい。あちこちから天文の研究者とかが集まっているらしい、飲み屋で飲んでるみたいだぞ、というのでもいい(笑)。と言っているものの、まあ自分のことで精いっぱいなので、あまり構えて考えてはいないんだけど...

富:そんなことはないでしょう(笑)。

富:では最後に、若手に(でなくてもいいのですが)ひとこと助言などありましたら、お願いします。

中:う〜ん、そういうのは苦手で...。あまり人のことは考えたことがないしなあ。忠告もしたことない。何か言わないといけない?頭がそういう風に動くようにできていないので(笑)。



図1 夏休みに行う観測所公開日で、反射望遠鏡の主焦点像の説明をしている。



図2 銀河学校で撮った赤外線写真(NGC 2024)を生徒と見ている。

富：質問がまずかったですかね（笑）。では、木曾観測所の大変明るい雰囲気（？）の秘訣でも教えて下さい。

中：木曾観測所は最初からそういういい雰囲気ですよ。岡村さん（現在は東京大学本郷の天文学教室でお仕事）の時からですよ。あと、職員（？）の人の性格がもともといいんでしょう。わりと無邪気な人が多いかな。とにかく俺のおかげ、なんかじゃないよ（笑）。

富：中田さんらしい締めくくり方ですね（笑）。今日はありがとうございました。



図 3 学生（？）と議論中。

私の滞在の次が銀河学校でした。熱心な高校生、指導に燃える木曾の職員でござったがえしていました。最初の頃の銀河学校卒業生が大学院生になり、そのような人たちが高校生のために講師で戻ってきたようです。銀河学校の授業ができるようにと、新しいプレハブもオープン直前でした。これからここで研究会もたくさんできるではないですか、と中田さんに言ってみました。いや、研究会や飲み会はできれば下でやりたい。別に派手に宣伝するのではなく、ああこの町に天文学者がいるなと伝えたい、というお返事。なるほど、と感じました。本文を中田さんに点検頂いた際、投げやりな言い方に聞こえる書き方にな

ったかも、とのご感想を頂きましたが、もちろん本当は正反対です。中田さんは終始笑顔で（笑顔でない中田さんをあまりお見かけしません）、頭をかきながら体を傾けてお話しして下さいました（図3のような雰囲気；右側は富田ではありませんが）。

中田好一（なかだ よしかず）さん
1945年、東京生まれ。1969年、東京大学理学部天文学科卒業、1973年、東京大学大学院天文学専攻中退、理学博士。1991年から木曾観測所に勤務され、2000年から所長。芝居見物が趣味、最近30年ぶりにスケッチを始めた。



富田晃彦

atomita@center.wakayama-u.ac.jp